

艦載装備品開発の歩み ～キャッチアップからフロントランナーに～

○金子 博文 （防衛省技術研究本部 副技術開発官（船舶担当））

特徴

技術研究本部において開発されてきた様々な艦載装備品について、技術的な観点からその変遷について解説する。

概要

海上自衛隊が使用する艦載装備品の開発は、技本黎明期における外国製装備品にキャッチアップする魚雷、機雷、爆雷、ソナー等の国産化から始まり、創立から60年に渡って技術研究本部で営々と築かれてきた装備品向けの特殊な技術と日本の優れた民間電子技術等が融合した世界的にも技術のフロントランナーとなる最新の12式魚雷まで着実に取り組んできたところである。

第二次大戦当時の技術をベースに国産装備品開発はスタートし、その後個々の装備品からコンピュータ化されたシステムとしての装備品開発へ、さらに近年飛躍的に向上したCPU技術、ネットワーク技術及び先進的なソフトウェア技術が融合したシステムのシステム（System of Systems）としての大規模な開発へと進化している。

当日は、技術研究本部が開発を担当した艦載装備品が時代の趨勢にあわせてどのように技術的に深化してきたのか具体的事例を提示しつつ紹介するとともに、今後厳しさをます研究開発環境下における今後の課題についても紹介する。

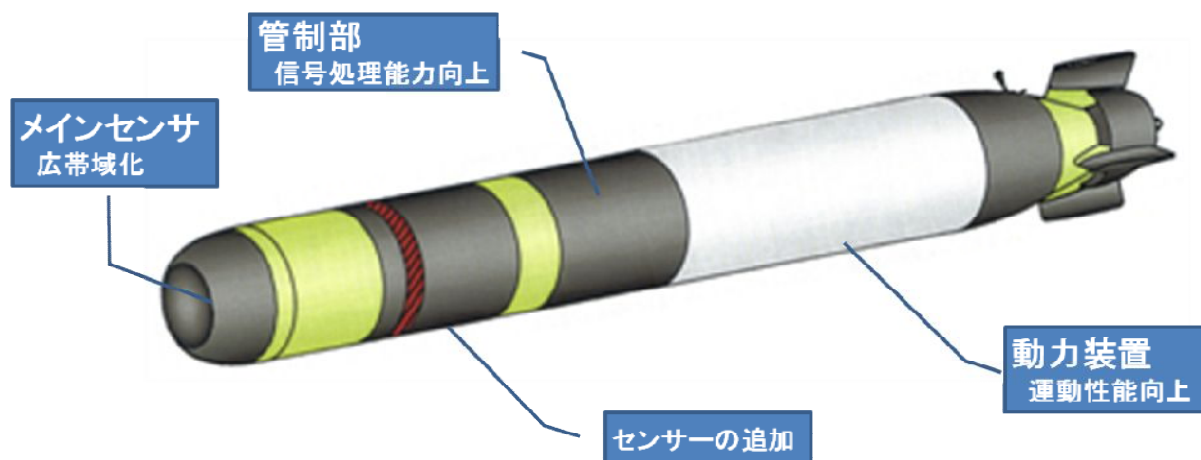


図1 魚雷概略図